

東南置賜地区の県立高校再編整備計画（骨子案）に係る地域説明会【高畠町会場】記録要旨

- 1 日 時 令和元年6月4日（火）19：00～20：40
- 2 場 所 浜田広介記念館
- 3 出席者 地域の方々 30名
県教委 須貝教育次長、生島高校改革推進室長、外 事務局職員4名
- 4 内 容 生島室長から概要説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

（質問・意見）

- 工業の6分野について教えて欲しい。

（県教委）

- 工業の6分野とは、機械・生産系、電気・制御系、情報・通信系、土木・建築系、化学・素材系、環境・デザイン系のことであり、産業教育審議会の答申の中に示されている。米沢工業高校は3学科5学級であるが、コース制を導入するなどして6分野の選択肢を提供している。

（質問・意見）

- 米沢工業高校定時制を夜間から昼間への移行により、朝起きられないなどのため夜間しか通えない生徒には厳しい状況になってしまうのではないかと。また、酒田西高校が昼間に移行されたが、どのような現状であるのか教えて欲しい。

（県教委）

- 昼間定時制の授業開始時間はいろいろなパターンが考えられるが、詳細についての検討はこれからとなる。県内では、霞城学園高校は午前の部、午後の部が設置されており、酒田西高校は午前の部だが、様々な理由により、授業開始時間を全日制より遅い時間に設定している。場合によっては、開始時間を10時とし、昼を挟んで14時までとすることも考えられる。酒田西高校は平成30年度に昼間に移行したが、特に大きな問題はなく、平成30年度の県教育研究会養護教諭部会で、朝型の生活となったため生活リズムが良くなったとの報告がある。

（質問・意見）

- 中学校の先生の多くは進学校出身であるために、産業高校の教育内容や卒業後の進路について十分に理解していない。このことが、産業高校の定員割れの原因の一つになっているのではないかと。中学校と高校が連携し、中学校の先生に産業高校を知ってもらうための取り組みが必要である。

（県教委）

- 地域産業を担う人材を育成するためには、産業高校へ進学する生徒の増加が必要である。産業高校では中学校へのPR、中学校では職業選択に関するキャリア教育等が行われているものの、中学校・高校間の連携はまだ不足しているのではないかと。

（質問・意見）

- 高畠地区は交通の便が良いため、村山地区の私立高校に進学している中学生が多く、私立高校への流出を食い止める方策を考えなければならない。公立高校と私立高校との関係はどのよ

うになっているのか。

(県教委)

- 私立高校について意見する立場にないが、私立高校は建学の精神によって設置、運営がなされており、公立高校と切磋琢磨しながら、本県の教育を担ってきた。高校標準法に中に、「都道府県は、その区域内の私立の高等学校の配置状況を十分に考慮しなければならない」とあり、山形県教委と私立学校は定期的に協議会を設けて意見交換を行っている。その中で、公立高校と私立高校の生徒数の比を7：3にするという申し合わせがある。

(質問・意見)

- 米沢市が併設型中高一貫校の設置を要望したようだが、置賜地区への設置についてどのように考えているのか。

(県教委)

- 併設型中高一貫校を設置すれば、県立中学校を新設することになり、市町の中学校に影響があるため、地元が望まない限り県が一方向的に設置することはないことを基本方針としてきた。もし中高一貫校をつくることになれば、長期的再編で示している3校または4校の外に新たに中高一貫校をつくることはない。これらの中の1校に県立中学校を併設することになるのではないか。中高一貫校を設置することを前提として、高校再編を検討してはいない。

(質問・意見)

- 米沢興譲館高校の志願倍率が上昇し、逆に米沢東高校が定員割れとなっているが、最近、米沢興譲館高校を受検し、不合格の場合は米沢中央高校に進学する中学生が多くなり、米沢東高校を志望校としない傾向にある。そのような状況は把握しているのか。また、このような実態は再編整備計画に反映されるのか。

(県教委)

- そこまで詳細な分析・読みは行ってはいない。この地区の中学校卒業生数を基にして、私立高校との関係を踏まえながら、高校の志願倍率も加味しながら総合的に考えて、各高校・各学科の定員や再編整備を検討している。

(質問・意見)

- ① 長期的再編により米沢市外の高校が1つの高校に統合となれば、南陽市、高島町、川西町のうち2つの自治体に高校が無くなってしまうことになるのか。その場合は、どこの校舎の活用を考えているのか。自分の住む自治体から高校が無くなってしまうことは、地域住民にとって非常に残念なことである。置賜農業高校が高島高校または南陽高校に統合となった場合、置賜農業高校の所有する農業施設をどのように移設するつもりであるのか。
- ② 米沢興譲館高校と米沢東高校が統合となった場合、探究科、普通科の学級数はどのようになる見込みか。また、統合となっても米沢興譲館高校の学力レベルは維持されるのか。

(県教委)

- ① 長期的再編の詳細については、令和7年度から令和8年度に検討することとしているが、置賜農業高校が他校との統合となった場合、置賜農業高校の既存の農業実習地や施設の移設は極めて困難であるため、現在ある実習施設を活用することが基本となるであろう。庄内地区にお

いて、鶴岡中央高校、庄内農業高校及び加茂水産高校を将来的に統合する計画を示している。その計画では、鶴岡中央高校の校舎での普通科目の学習を中心としながら、水産や農業の実習を行う際は、現在の加茂水産高校及び庄内農業高校の実習施設も活用して専門教育を行い、3校舎での学びを継続することを想定している。

- ② 長期的再編の詳細については、令和7～8年度の検討となるが、令和17年度の東南置賜地区の県立高校の合計学級数は、19学級程度と想定している。A案の4校で等しく分配すれば1校当たり4～5学級、B案の3校で配分すれば1校当たり6～7学級と計算できる。米沢興譲館高校が単独校として維持しても、米沢東高校と統合となっても、少子化により生徒数は減少するためおのずと学力差は大きくなっていく。学校規模が縮小し、教員数が減少すれば、様々な学力の生徒に対応するための多様な学びや選択肢が展開できなくなるため、統合により学校規模を大きくすることが必要となってくる。

(質問・意見)

- 統合により高校の数が減少すれば、生徒の選択肢が少なくなってしまうのではないかと懸念している。

(県教委)

- 生徒に多様な選択肢を保障することは高校の再編整備を進める中で、重要な視点であると考えられる。確かに、統合により高校の選択肢は少なくなるが、学びの選択肢を減らさない教育課程を検討していく。逆に、統合が進まず学校規模が小さくなった場合、十分な教員数を配置することができないため、生徒の学習ニーズや進路希望に対応する教育課程の編成ができなくなり、かえって生徒の選択肢が少なくなってしまう。

(質問・意見)

- 米沢興譲館高校の学力を維持するためには、米沢東高校と統合して定員を増やすよりも、統合せずに定員をある程度狭めた方がよいのではないかと懸念している。

(県教委)

- 平成16年からの30年間で中学校卒業生数が半減するという事は、学力のトップ層の人数も半減していることになる。つまり、平成16年度に6学級だった米沢興譲館高校の学力レベルを30年後まで維持しようとするならば、3学級規模の高校としなければならないことになる。3学級規模の高校となれば、大学入試に太刀打ちできないだけでなく、学校の魅力も失われてしまう。今後、定員を大幅に減らさずに維持していけば、今まで入学できなかった学力層の生徒も入学し、自然に学力差が大きくなってしまいが、入学後に、コース・習熟度・進路希望に分けた授業を展開するなどできめ細やかな指導した方が、多くの生徒の希望に叶えられる教育が可能であるのではないかと懸念している。

(質問・意見)

- 米沢興譲館高校が小規模化して教員が不足した場合には、大学受験に必要な専門科目の教員を臨時で雇うことで対応できないのかと懸念している。

(県教委)

- 公立高校に配置される教員数は、生徒の収容定数に応じて決まるため、定員が減れば配置される教員数は減少してしまう。

(質問・意見)

- 現時点で米沢興譲館高校と米沢東高校の統合を考えているのか。

(県教委)

- 米沢興譲館高校と米沢東高校の統合を含む長期的再編の詳細については令和7～8年度の検討となるので、現段階では全く決まっていない。

(質問・意見)

- 高畠高校はA案でもB案でも学級減により2学級となる。2学級となっても高畠高校の魅力的な教育活動は維持されるのか。

(県教委)

- 高畠高校は総合学科であるため、同規模の普通科高校よりも教員数が多く配置されているが、学級減で規模が小さくなるのは避けられない。検討委員会「報告書」では、小規模化しても教育環境の維持のため、近隣の高校との間で、合同の学校行事、部活動の合同練習等連携・交流などの実施を検討課題として提示いただいた。また、学級減により4系列から3系列に変更となることも想定されるが、できるだけ魅力的な教育活動が継続されるカリキュラムを考えていきたい。地域の教育資源の活用、地域の方々の支援が今まで以上に必要となることが想定されるので協力を願いたい。

(質問・意見)

- 高畠高校の学級減は既に決定されていることなのか。高畠高校の代わりに南陽高校を学級減とすることはしないのか。

(県教委)

- 正式な決定は、令和2年3月となっている。学級減の対象校は、入試の倍率だけでなく総合的に判断して決定している。高畠高校は、平成8年度に家政科を募集停止して以来、学級減をせず3学級を維持してきたが、その間南陽高校は4学級の削減を行ってきた。今回、少子化に対応するために、総合的に考えて高畠高校を学級減対象校とした。

県立高校再編整備計画に基づき県立高校の学級減を進めており、東南置賜地区においては平成27年度～平成36年度の10年間で5学級削減するとしている。平成28年度に米沢工業高校、平成30年度に南陽高校を学級減し、令和6年度までさらに3学級の削減する必要がある。南陽高校は30年度に学級減したこともあり、高畠高校を学級減しなければならないという判断をした。

(質問・意見)

- ① 高畠高校が2学級になれば、学校の魅力が失われてしまうのではないのか。
- ② 中学生に幅広い選択肢を提供するためにも、再編統合にあわせて学区制の検討をして欲しい。

(県教委)

- ① 3学級から2学級にした方が魅力的な学校になることはない。小規模となっても可能な限り学校の魅力を維持していく手立てを考えていくことが必要となってくる。
- ② 以前に開催した地域説明会でも、学区制について検討を求める声があった。県内のどの高校も選択できるように学区を無くして、選択の幅を広げて欲しいという高校を選択する側の思い

は理解できる。一方で、学区制の廃止により、ますます一極集中化が進んでしまい、周辺地域において、子どもの数が加速度的に減少し高校存続が厳しくなる。結果、近くの高校がなくなってしまうことも想定されるため、学区制の見直しは簡単なことではなく、今回は、今ある学区の枠組みの中で再編整備を検討してきたことを理解いただきたい。学区の在り方については、今後も考え続けなければならないことであると認識している。

(質問・意見)

- 1学級の定員を、40人から35人や30人に減らすことは考えていないのか。

(県教委)

- 公立高校に配置される教員数は、生徒の収容定数に応じて決まる。少人数学級編制にして入学定員を減らした場合、配置される教員数が減ってしまい、教育課程の編成が困難となるため、40人学級としている。例えば、米沢興譲館高校は40人の5学級を、30人の5学級とした場合、4学級分にも満たない教員しか配置されないこととなる。

以上